

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 ニュースレター

《編集・発行》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報部会

〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール:jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

～巻頭言～

先日読んだ村井宮城県知事の著作に、宮城県では400年前の1611年（慶長16年）にも、先の東日本大震災と同様の大津波による被害を被り、多くの人々が犠牲になったことが書かれていました。当時の藩主は、皆様もご存じの伊達政宗公でしたが、正宗公は震災の僅か2年後（慶長18年）に、後に「慶長遣欧使節」の名で知られるようになる使節団を、スペインとバチカン（ローマ）に派遣しています。今のように、国からの復興支援等もなく、全て自前で復興をしつつ準備した使節団派遣で、その苦労たるや一方ならぬものがあつたと思われまふ。今仙台は、杜の都と呼ばれるにふさ

わしく青葉にあふれており、去る5月19、20日の両日には、「青葉まつり」が行われました。仙台の街中に、伊達公の時代から受け継がれている「すすめ踊り」を楽しむ老若男女があふれ、多くの観光客や市民の歓声と、笛、太鼓の音が街中に響いていました。

15か月前、絶望の中で微かな光を求めて彷徨う私たちは、日本中、世界中の皆様から希望という光をいただきました。

私は、一日も早く被災地すべてで希望の光が見えることを願うばかりです。□

平地 健（広報部会、宮城県）

～もくじ～

巻頭言	1
栗山義孝氏ご挨拶	1
～代表理事退任に際して～	
被災車両処理活動終了式典	2
被災車両処理協力会員表彰	2
全国地域活動報告	3
東京都地域講習会	
北九州ELV協同組合	
福島県自動車リサイクル協同組合	
全国地域講習会中間報告	3
スクラップ市場最新情報	4
編集後記	4

～代表理事退任に際して～

この度の第9回日本ELVリサイクル機構定期社員総会におきまして、二年間務めました代表理事を退くことになりましたことをここに報告申し上げます。

その間、会員の皆様並びに機構役職員、諸関係者の皆様のご協力、ご信任を頂き、大変な時期ではありましたが大過なく過ごせましたことを、紙面を借りて心よりお礼申し上げます。

私が、急逝された故酒井清行前代表理事の後をお引き受けして任に就いた二年前には想像もつかなかったような出来事が起こりました。申すまでもなく、東北地方を襲った未曾有の地震と津波とそれらが引き起こした原発事故です。未だに、心や身体の傷から逃れられない方達のお苦しみは如何ばかりかと衷心からお見舞い申し上げます。

一方、私たちの業界が、その禍難からの復興に僅かばかりとはいえお手伝いが出来たことを大変誇らしく思うものです。全国の会員や協力者から1千万円を超える義援金が寄せられましたし、被災車両の撤去事業



には、延べ三千四百名ものELV機構ならびに関連団体会員からのボランティアが全国から馳せ参じてくれました。私が、代表理事就任の際に皆様をお願いした『全員野球』の精神がこのような形で実現したことにつき、先月、仙台市で開催された支援本部の解団式出席の際、特に強い感激を覚えた次第です。

私たち業界を取り巻く環境は、今後益々厳しさを増してこようと思われる中で、今回代表理事に選任された河村二四夫氏を中心とした新たな執行部が、震災対応に向けて発揮された業界の結束力を起爆剤の一つとして更なる発展と安定化に向け果敢にご活躍下さることを私は確信いたしております。

会員の皆様、全国地域団体の皆様、部品流通団体の皆様、これまで私並びに執行部に御示し頂いたと同様のご理解とご支援を新執行部に対して御示し頂きますようお願い申し上げます。□

平成二十三年六月

栗山 義孝



仙台市において被災車両処理活動終了式典が開催されました

去る5月18日、仙台市青葉区のウエスティンホテル仙台において、昨年4月来活動が続けてきた東日本大震災被災車両処理活動の終了を祝う式典が開催されました。

被災車両処理活動は、昨年4月4日にELV機構が設置した被災車両処理対策本部（栗山 義孝本部長）に参加した関連諸団体が実施した被災地における被災車両の撤去活動で、この度、当初の目標を達成したと考えられることから、活動の終了を宣言する式典を開催するに至りました。

式典には、本事業を推進した被災車両処理対策本部栗山本部長を始め、対策本部の清水信夫理事、宮城担当部長の大橋岳彦副代表理事ならびに対策本部に参加した諸団体の代表者が数多く参加しました。また、活動の拠点となった仙台市、岩沼市からはそれぞれ副市長ほか、経産省からは自動車リサイクル室長他が出席され、更に、自動車リサイクル促進センターの葛西 健洋専務理事、自動車再資源化協力機構の加藤忠利代表理事など大勢のご参加があり、総勢約60名の関係者が集って事業の終結を喜び合いました。また、今回の事業に参加した各団体は、それぞれに分配された撤去車両の販売益から、それぞれ仙台市、岩沼市に復興支援金の寄付を行いました。□



写真説明

右上：式典で挨拶をする栗山義孝本部長

右下：出席した関係者

左：懇親会における表彰式風景

貢献の著しかった大田広さんと

スーパーライン東北の社員の皆さんが表彰されました



《被災車両処理活動協力会員の表彰》

6月15日に開催された日本ELVリサイクル機構第9回定期社員総会の際、ELV機構の被災車両処理活動に参加・協力頂いた会員39社に対して感謝状を授与し、その活動を称えました。

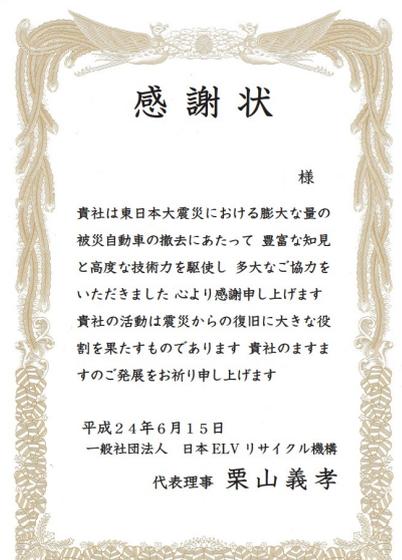
感謝状が授与された会員各社は以下の通りです。

(有)会田車輛
アール・ループ(株)
(株)有原商店
(有)石田産業
(有)岩崎商会
浦和自動車解体(株)
(株)M&A山梨カープレス
(株)オートパーツ三伸
(株)大橋商店
(株)岡自動車商会
(株)関西リビルトパーツ

(有)金澤商会
(株)河村自動車工業
(株)協栄車輛
(株)共伸商会
峡南自動車解体
栗山自動車工業(株)
(株)権田商会
三協自動車(株)
(株)シーパーツ
(株)3R
(有)駿河商会

(有)太陽興業
田中自動車解体
(有)玉穂商会
(株)轟商会
新潟県オートリサイクル(株)
新潟自動車リサイクル(株)
日本オートリサイクル(株)、
(株)ホサカ自動車商会
丸利伊丹車輛(株)
(株)水野商店
源自動車解体部品
(株)南商会
宮原商店
(有)ヤマグチ
(有)山崎商店
(株)萬屋
(株)ユーパーツ

(あいうえお順全39社)



(授与された感謝状)

◆東京都地域講習会 江戸川会場

東京自動車リサイクル協議会（金子宏会長）は、前号で紹介した調布会場（4/22）に引き続き、5月20日（日）江戸川区篠崎文化プラザにおいて講習会を開催した。会員外の4名を含む31名が参加したが、特に受講者の年齢層も低く、高い意識の感じられる活発な講習会となった。これは、東京都が、引き取り・フロン回収許可更新の際にjaera地域講習会の受講修了証の提示を許可条件として認めるようになったことと無縁ではない。極めて地味な講習会活動も、継続したからこの結果と言えよう。地域団体講習会が、自治体により認知されるよう精進して参りたい。□

東京自動車リサイクル協議会 会長 金子宏



◆北九州ELV協同組合

当組合会員より9名、会員外、来賓4名、合計13名の出席を得て5月19日（土）、市内若松区において地域講習会を開催した。短時間ながら、参加者一同集中力を切らさず熱心に受講して頂いたことが印象的であった。活発な質疑こそなかったが、講師、受講者共に緊張したよい講習会になったことと思う。□

北九州ELV協同組合 理事長 森田光弘



《平成23年度全国地域講習会中間報告》

平成23年度全国地域団体講習会は、当初、3～5月の期間内で開催いただくようお願いしておりました。諸般の都合により、期間内に実施できず、6月以降開催で準備しておられる地域団体もありますが、とりあえず5月31日時点の開催状況並びに予定をお知らせいたします。

- ◇開催団体並びに会場数 : 5団体22会場 (実施済み)
- ◇6月以降開催(予定) : 5団体5会場 (案内済み)
- ◇予定はあるが未案内の団体 : 6団体
- ◇その他未計画の団体 : 5団体
- ◇受講者総数 : 484名(実施済み分)
- ◇テキスト類販売実績 : 563部

なお、既開催分で会場数が団体数を下回るのは、複数団体が共同開催したためです。

開催に際しましては、各団体代表の方々を始め、多くの皆様にご尽力頂きました。心よりお礼申し上げます。□

日本ELVリサイクル機構 事務局

◆福島県自動車リサイクル協同組合総会

5月24日、福島ビューホテルにおいて第6回通常総会を開催した。会員25社の代表が参加した総会では、予決算案を含む執行部提案議案の全てが円滑に承認された。総会に引き続いて開催された第二部では、県生活環境部、日本ELVリサイクル機構、県自動車販売店協会、車体整備協同組合他の来賓が、それぞれ状況報告を行った。その後、開催した懇親会では、会員、来賓間の交流も進み、極めて有意義なひと時となった。□

福島県自動車リサイクル協同組合

代表理事 田村 幸男



2012.05.25/15:14

～6月第2週(13日)の鉄スクラップ動向～

東西テnder、H2落札価格2万5千円台に

関東鉄源協同組合(理事長＝渡辺淳丸和商事社長)が12日に実施した鉄スクラップ共同輸出入札(テnder)の結果は、下落が続く輸出相場を反映する結果となった。商社筋によると、直近のH2輸出成約価格は韓国向けで1トあたりFOB26,000円どころで、2009年12月第1週以来およそ2年半ぶりの安値まで下落している。今回のテnder落札価格帯もほぼ同水準にまで急落した。

また、同日に関西鉄源連合会が実施した共同輸出テnderの落札価格も25,000円前半まで急落し、域内相場を下回る結果となった。

■関東鉄源協同組合は、H2を1トあたり平均25,702円で合計18,000ト落札した。前月比で5,817円下落。落札したのは、26,560円から25,300円までの4件。船積み期限は8月15日まで。

■関西鉄源連合会は、5月に続き2ヵ月連続で鉄スクラップ共同輸出入札を実施し、H2を1トあたり25,360円で3,000ト落札した。前月比で6,020円下落。落札商社は住金物産、積み期は6月18日～7月20日まで。

関東地区 国際相場続落で弱含みの推移続く

関東では湾岸商社・シッパー筋の先安見通しが強く、弱含みの相場推移が続く。加えて、目先に船積み予定のない筋を中心に

荷止を実施するところも出ている。韓国ミルの引き合いが弱まっているほか、西日本電炉の購入価格引き下げで関東地区との価格差が狭まっており、西送りなど内航も困難な状況になっているためだ。関東地区のH2炉前実勢価格は25,500～26,500円中心、高値27,000円見当。現在のH2浜値は24,500～25,000円中心。

東海地区 市況は軟弱感も、荷動き全般に鈍化

名古屋地区では、4月中旬以来の下げ市況で市中滞留玉は出尽くした感があるのと、全般的な発生の伸び悩みもあり、業者筋のヤード入荷は振わない。このためメーカー入荷は一時の勢いは見られないものの、消費量には足りる状況にある。今のところ市況の歯止め材料に乏しく、さらに安値圏に突入することも予想される。ただ現在の急激な下げペースは鈍るのではとの見方も。東海地区のH2炉前実勢価格は25,500～26,500円中心。

関西地区 市況下支え材料見当たらず、なお弱含みの展開

大阪地区では、いまだ市況を下支えする材料が見当たらず、市中業者は入荷・即出荷の体制を維持している。全般に電炉のスクラップ在庫が高い水準にあることで、各社、値下げに動きやすい状況。同地区電炉のH2実勢値は26,000～27,000円(一部上値27,500円)。姫路地区の電炉4社は7日入荷分から購入価格を一斉に1,000円引き下げた(一部品種を除く)。同地区のH2炉前実勢価格は26,000～26,500円見当と、昨年の最安値水準。

□ (※価格、数量等は6月12日時点の日刊市況通信社調べ)



		H2		気配
関東	北関東	25,500	～ 26,500	弱含み
	南関東	25,500	～ 26,500	弱含み
名古屋		25,500	～ 26,500	弱含み
関西	大阪	26,000	～ 27,000	弱含み
	姫路	26,000	～ 26,500	弱含み



《編集後記》

- ◇ 余りにもあつけなく逝かれた故酒井 清行前代表の後を継がれた栗山 義孝代表も二年の任期を終えられた。速いと言えば速い時の移ろいではあるが、振り返れば、色々な出来事の詰まった2年間ではあった。中でも、東日本大震災の発生と、被災車両の処理に立ちあがった自動車リサイクル業界の活動は強く記憶に残る。
- ◇ 時の流れを速いと感じるのは、嫌なことは忘れ、いいことだけが記憶に残るからだという。加齢によるものとも思えるが、決して忘れられないこと、忘れてはならないこともある。水に流すのが日本人の美德などというが、決してそうとは思わない。
- ◇ 本誌が、読者各位の手に届くころには、定期社員総会も終わり、ELV機構の新執行部も発足していることと思う。この困難な状況の下、代表理事を初めてとする新執行部への期待は大きいだろうが、一般会員は、ELV機構に只期

待するだけでなく、それぞれが業界活動にどんな貢献ができるかを真剣に考え、その結果を行動に移すことを心がけて頂きたい。

- ◇ また、今回の定期社員総会にはELV機構の組織改定が提案されるはずである。例えば、全国のブック割をより実状に即した形態にすること、会員資格のあり方について公平性を高めること、等が改定の基礎になろう。ELV機構の活動を円滑にし、会の勢いが増す方向に向けての改定となるように切に祈る。
- ◇ ELV機構が一段と飛躍するためには、参加するものの意識改革を含む諸々の変更が断行される必要があるだろう。場合によっては、血のどろきな手術が必要になるかもしれないが、新執行部を信じ、メスを持つその手が鈍らないよう応援していこう。□ (編集子)